

びわのみ

— 坪田^{しまだ}譲治の「故郷」へ帰ろう —



フートルダム清心女子大学 日本語日本文学科
「ツボジョーワールド探検隊」による 坪田譲治紹介冊子

坪田譲治とびわのみ



1907 (明治40) 年 17歳
金川中学 (現・岡山県立岡山
御津高等学校) 卒業のころの坪田

坪田譲治 小説家・児童文学作家

岡山市島田 (現・岡山市北区島田本町) に生まれる

1890 (明治23) 年3月3日生

1982 (昭和57) 年7月7日没

作品に登場する びわ

「鳳凰の卵というのはまだ見たことも聞いたこともないけれども、もしかしたら、こんな美しい木の実のようなものではないだろうか。」

(「びわの実」)

「ね、きれいでしょ。まるで、金色の鳥でもとまっているようです。」

(「びわの木学校」(長編))

岡山の家にも、東京の自宅にも、庭に、びわの木が植えられていたんだよ。



譲治が生涯愛した びわ

1961 (昭和36) 年 自宅の敷地内に開設した家庭文庫に「びわのみ文庫」と名づける

1963 (昭和38) 年 創刊・主宰した童話雑誌に『びわの実学校』と名づける

そっかあ、

こんなふうに譲治さんがびわ好きなことにちなんで、この冊子のタイトルを『びわのみ』に決めたんだね。

目次

・坪田譲治とびわのみ	2
・まんがでたどる「エヘンの橋」	3
・島田いま・むかし	7
・さあみんなで ツボジョーカルタ！	9
↓島田のものがたり↓	
・さあみんなで ツボジョー体操！	17
・インスタグラム はじめました！	23
・それぞれの「故郷」を発見しよう	25

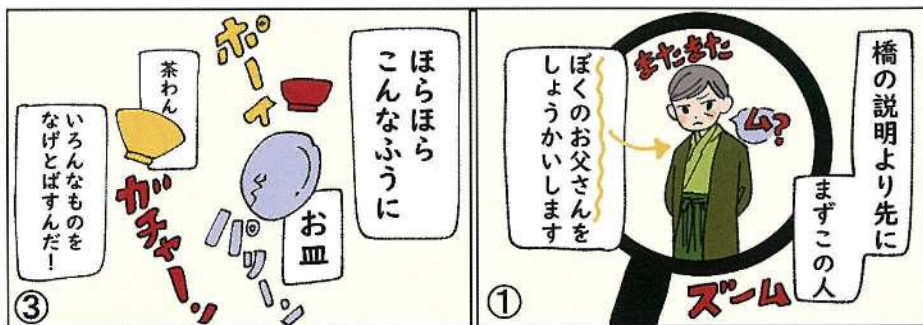
本冊子は、現在の岡山市北区島田本町に生まれ育った作家・坪田譲治が、故郷岡山を生涯愛して作品に描き続けたことを、より身近に感じていただきたく作成しました。

二〇二〇年三月三日に、坪田譲治生誕一二三〇年を迎えます。

この記念の年にあたって、私たちは「ツボジョーワールド探検隊」は、ノートルダム清心女子大学日本語日本文学科で文学の学びを深めるなかで、坪田譲治の故郷への愛に親しみをもって触れることによって、現代社会に生きる私たち一人ひとりがみずからの故郷への思いを抱き、地域での生きがいにつなげられるのではないかと信じ、活動をしています。

そのような思いから、新たに私たちが考案した「ツボジョーカルタ」と「ツボジョー体操」では、坪田譲治の作品「エヘンの橋」を中心に、故郷での幼少期の体験を描いた作品世界を紹介します。

譲治の描く故郷に触れながら、あなた自身の故郷にも思いを馳せてみませんか。

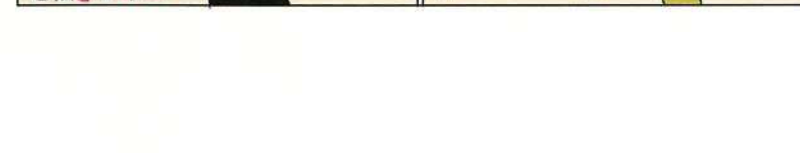


まんがでたどる「エヘンの橋」

今も島田にあって、
坪田譲治さんのエピソードのもとにもなった
「エヘンの橋」。
不思議な名前の橋だね。



ツボジョーワールド探検隊のみんなが
この話をまんがにしてくれたんだ!
読んでみてくれるかい?





どうじゃったかな?

「エヘンの橋」はわしが79歳の時、
子どもころの実体験を作品にして、
『かっぱとドンコツ』(1969年10月)に収録し、
出版したものだよ。



島田 令和



岡山市立石井小学校
『学校に住んでいたたち』

大川 (現・能登川)
『大川の泳ぎ場』
『かっぱに出会った話』

坪田家
島田製織所跡
(現・なかよし保育園)

クスノキ
エヘンの橋
『エヘンの橋』

坪田譲治生家跡
(現・シンコー印刷)

僕の作品の舞台になった場所は、
現在の島田（北区）にたくさんあるんだよ。
●の場所は現在君たちが訪れることもできるんだ！
作品も読んでくれたらうれしいな。

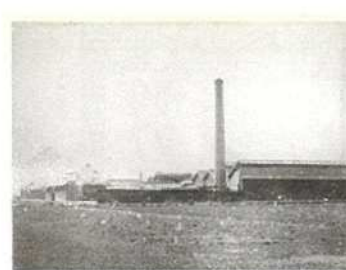


島田 明治～昭和 島田いま・むかし



●現存するエヘンの橋

昭和43年、エヘンの橋（御影石）の上で、生家を眺める譲治（左から2番目）



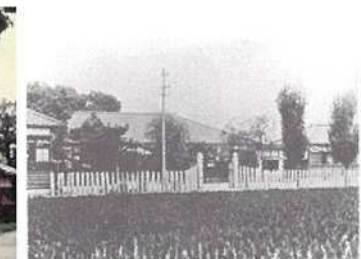
●島田製織所 (現・なかよし保育園)

明治13年に父平太郎が創業したランプ
芯工場



●現存するクスノキ

生家は昭和62年7月に取り壊された



●石井尋常小学校・高等科

譲治は、明治29年から32年まで
石井尋常小学校に、明治34年に同
校高等科に通っていた

し

ようじあけ
いたちいるかな
つれたかな

さくひん：学校に居たいたち

す

ずのおと
休みじかんだ
チリンチリン

さくひん：学校に居たいたち

たいへんだ

おこった父さん
ちゃわん なげ

さくひん：エヘンの橋

か

っぱさん
「ゴングの
おんじまい
またきておよぐ」

さくひん：大川の泳ぎ場

い

たちきた
みんな自分の
はなつまめ

さくひん：学校に居たいたち

ひ

とつぶも
かれずに
めをだせ
かきのたね

さくひん：七人の子供

おとうさん

かえったごはん
いそがなきや

さくひん：エヘンの橋

さあみんなで ツボジョーカルタ！

ー島田のものがたりー



- ・カルタの絵札はこの冊子に挟んだ別紙にあります。
- ・カルタの絵札は一つの大きな絵合わせとしても楽しめます。(11 ページが見本です)
- ・カルタの題材となった作品を、冊子から探してみしょう。

く

すのきが
蔵のうしろに
そびえたち

さくひん：子ども十二か月

こども

大將
まって登校
かわらみち

さくひん：子ども七人

ら

んぷしん
工場たてたよ
おとうさん

さくひん：エヘンの橋

き

ききききき
ゆかのしたから
なきごえが

さくひん：学校に居たいたち

ま

つのたね
兄さんからの
おくりもの

さくひん：七人の子供

み

んないこう
ぼくらの泳ぎ場
大川へ

さくひん：大川の泳ぎ場

ほ

うおうが
びわの実
たべて
とんでいく

さくひん：子ども十二か月

は

しのうえ
おとうさん
とおるエヘン橋

さくひん：エヘンの橋

ふ

くろうが
「トウシテ
トウコイ」
なっている

さくひん：子ども七人

「ビワの実」

『赤い鳥』 1935年11月



木こりの金十は、ある日、金色の美しい木の実を見つけます。食べてみると、他と比べ物にならないほどおいしい。その種を植えてみると、たった数分でぐんぐん育ってしまいます。その時です。鳳凰のような鳥が飛んできて、その木になった金色の実を食べ始めました。

鳳凰たちがいなくなったあと、金十が木を確認すると、実が一つ残っていることに気が付きます。次第に、桃くらいの大きさから、夏ミカンのような大きさ、さらには西瓜くらいの大きさにまでなりました。大人三人で支えられるくらいの大きさになったところでやっと、実は大きくなるのをやめました。そんな不思議なお話です。

もしかすると、全て金十の夢かもしれません。夢でないなら、目が覚めても金の実があるはず。

あるでしょうか？
ないでしょうか？
どっちでしょうか？



「学校に住んでいたいたち」

『かっぱとドンコツ』 1969年10月 講談社



岡山の村や田んぼに多く住んでいた、いたち。そのいたちが、譲治の通う小学校に住んでいました。それも、教室の床の下に。

クラスメイトの景山くんは、いたちのことが気になって仕方ありません。そこで、カエルを使って捕まえることにしました。

「つれたあ——。」

教室中が振り返るほどの大きな声で叫びます。先生も生徒も一緒に運動場へいたちを連れ出します。景山くんは家に連れて帰るためにいたちをつないでおきましたが、授業後に運動場へ行ってみるとその姿はありませんでした。

早うつまめえ。つままん、
いたちが最後っぺというのをやるぞ。
くさい、くさいおならをするんじゃ。

「七人の子供」

『小学三年生』～『国民四年生』 1940年10月～1941年6月

中国に出征中の松男の兄さんから送られてきた手紙に、二百十粒の種が包まれていました。松男、善太、三平、金太郎、竹一、梅二、鶴三の七人は、開いた荒地にその種をまいて大切に育てました。

七人の子供たちは松男の兄さんに、マツやグミ、ユスラウメの種を送りました。すると兄さんは、警備をしていた中国の小さな村で、十粒、二十粒とわけてやり、もらった村人たちは、百年も二百年も寿命があるという日本の木をありがたがって、草も木も一本もない近くの山々にまきました。

ここからは「私」の未来の予想ですが、二、三十年後の月日が経って、中国の村の近くの山に、松山が生い茂ったおかげで谷川が流れ出し、村をうるおしました。いろいろな作物ができるようになり、村はたいへん繁昌しました。

これが七人の子供が
しようとしたことでもあります。



「大川の泳ぎ場」

大川は、小学生のみんなの泳ぎ場でした。

広さは、そうです、五十人はいれる学校の教室くらいありました。



「エヘンの橋」

「エヘン、エヘン」

あ、お父さんが帰ってきた！

その橋のところに帰ってきて、父のエヘンを思い出して、わたしもエヘンエヘンと、大きなエヘンをやって帰ってきました。



『かっぱとドンコツ』 1969年10月 講談社

「子ども大将」

集団登校する時に、リーダーとして号令をかけてくれるのが、子ども大将。

待ち場に定まっていたのは、学校に近い村の東のはしっこで、道ばたのへいのところでした。



「かっぱに出会った話」

大川に住んでいたかっぱ。

そのかっぱの姿を見かけたようなのです。

ぼうぼうの毛の中から、おそろしい目が光っていました。
「あ、ゴンゴだ。ゴンゴだ。」



ツボジョー体操

♩=120

作詞・作曲 ツボジョーワールド探検隊



さあみんなで ツボジョー体操!

～「エヘンの橋」～

この体操は「エヘンの橋」のエピソードをもとに、
ツボジョーワールド探検隊が歌や動きを考えました。

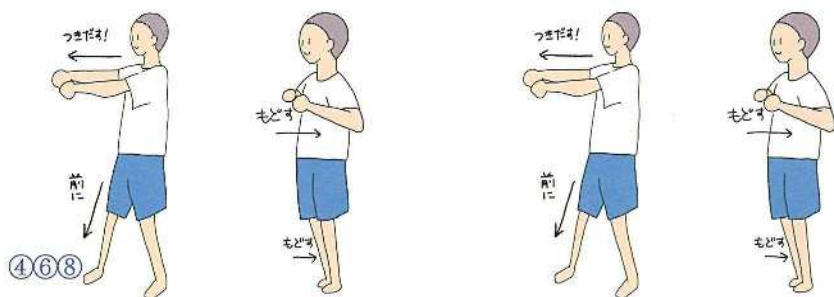
楽しく身体を動かして「エヘンの橋」を体感しましょう。



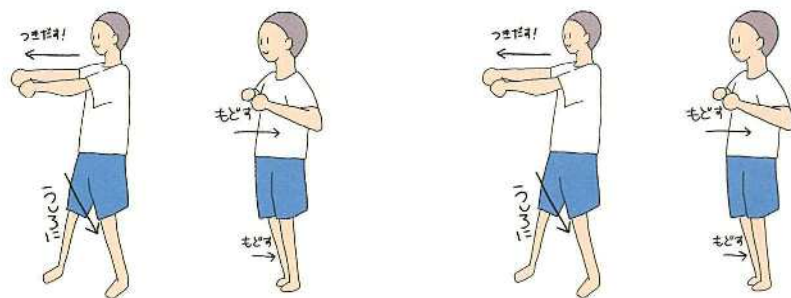
- ① さあ、冒険しようよ ぼくらはツボジョー探検隊
- ② さあ、冒険しようよ ぼくらはツボジョー探検隊
- ③ 譲治の父さん 工場たてた ④ ランプの芯織る カタンカタン
- ⑤ 島田は農家の村なのに ⑥ 工場できたよ カタンカタン
- ⑦ 父さん工場近いから ⑧ おうちに帰って昼ごはん
- ⑨ ただいま 昼飯たのしみだー
- ⑩ おつゆがさめてておいしくない 父さんおこったプンプン
- ⑪ 母さんからのお願いよ 帰りの合図を エヘンエヘン
- エヘンエヘン
- ⑫ 次の日から父さんは ⑬ 帰りの合図に エヘンエヘン
- ⑭ 裏の橋で エヘンエヘン ⑮ もうすぐつくぞ エヘンエヘン



工場たてた



ランプの芯織る



カタンカタン

<図解>ツボジョー体操

これであなたもツボジョー体操、マスター！ 楽しく体操しましょう



①②

さあ、冒険しようよ ぼくらはツボジョー たん けん たい



③⑤⑦

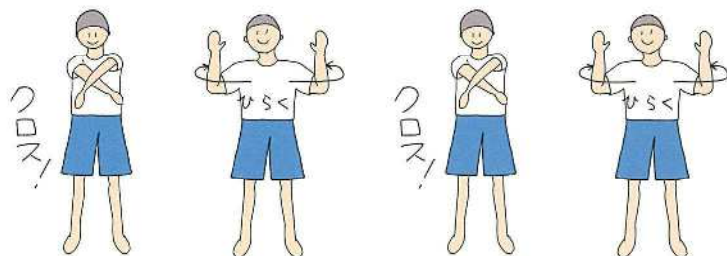
譲治の

父さん



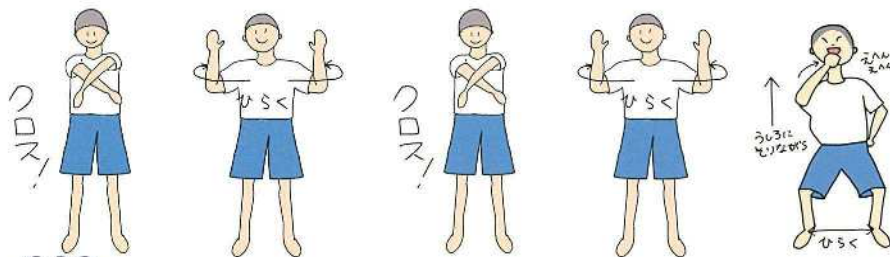
⑪

母さんからのお願いよ 帰りの合図を エヘンエヘン



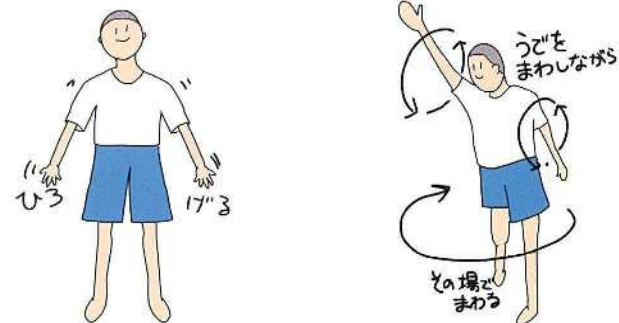
⑫

次の日から父さんは



⑬⑭⑮

帰りの合図に エヘンエヘン



⑨

ただいま昼飯たのしみだー

(間奏)



⑩

おつゆがさめてて 父さんおこった プン プン プン
おいしくない

tubojyo_worldexpedition ▾



9

投稿

2

フォロワー

0

フォロー中

ツボジョーワールド探検隊

ノートルダム清心女子大学日本語日本文学科の学生有志による「ツボジョーワールド探検隊」は、岡山の人と自然に支えられた作家・坪田譲治の心を多くの方々と共有することで、地域に生きる人々が生きがいを見出せるよう地域活性化を促す活動をしているグループです。

譲治の作品や活動などを発信していきます！

プロフィールを編集



フォロワーミー！！！！



Instaglam はじめました！

投稿内容

坪田譲治の作品の紹介や……

イベントの活動報告をしたり……

日々の活動報告などなど……



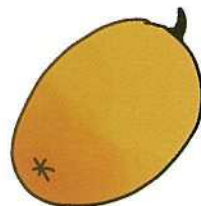
イベントの告知♡報告もします！！

★お世話になった方々

坪田 理基男さん
坪田 眞紀さん
熊澤 住子先生（ノートルダム清心女子大学教授）
村中 李衣先生（ノートルダム清心女子大学教授）
木山 博雅先生（ノートルダム清心女子大学非常勤講師）
大岡 愛梨沙（ノートルダム清心女子大学大学院修了生）
「文学と岡山」製作委員会

★「ツボジョーワールド探検隊」編集部

山田 依純
上野 伊織
近藤 円香
小林 初音
藤原 かえで
監修・山根 知子（ノートルダム清心女子大学教授）



ノートルダム清心女子大学・日本語日文学科「ツボジョーワールド探検隊」は、2017年度に結成されました。本年度2019年度は3年目になります。

第3期の活動では、幅広い年代の方々に、坪田譲治作品に楽しく触れていただく機会をつくることを目指し、「参加型」の企画によって、新たな取り組みを行っています。

びわのみ — 坪田譲治の「故郷」へ帰ろう —

発行日 2019年12月10日

発行者 ノートルダム清心女子大学日本語日文学科

《岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進事業」参加プロジェクト》

それぞれの「故郷」を発見しよう

譲治の心が、私たちにはこんなふうに響いてきました。
皆さんの心にも、届くといいな！



「学校に住んでいたいたち」を読んだ時、幼い頃に光らない蛍と出会った時のように、いたちの魅力を感じられる気持ちを思い起こしました。
本冊子では地図を作り、その地図から時代の移り変わりも感じましたが、一方時代が変わっても文学から同じ気持ちが味わえるという貴重な気づきが得られました。（山田依純）

「ツボジョーワールド探検隊」の活動の中で触れた「子ども大将」という作品によって、小学生の頃、集団登校をしていた光景が懐かしく蘇りました。
本冊子を読まれた方々にも、幼い頃の様々な思い出を振り返ってもらえたら嬉しいです。（上野伊織）

坪田譲治の「びわの実」には空想力があふれていて、大学生の今では思いつかないような常識にとらわれない想像力が、幼かった頃の自分にもあったということを感じさせてくれました。これにより私も柔軟な発想ができ、新しいことへの取り組みとして坪田譲治の作品をテーマに体操を考案するというアイデアを思い出すことが出来たのだと思います。（近藤円香）

この活動で扱った坪田譲治の童話「七人の子供」という作品を通して、幼いころ登場人物たちのように友人たちと遊んでいたときのわくわくした気持ちや、ふるさとの豊かな自然に目を向けることができました。
そして、その思い出と実感をカルタやマンガの絵に込めることができたと思います。（小林初音）

「ツボジョーワールド探検隊」の活動を通して、子どもの中に感じていた思いや体験を譲治の「エヘンの橋」に対する思いと重ねて体感することができました。本冊子の編集をしながら、普段通り過ぎてしまうような小さな石の橋や田んぼといった身近なふるさとを再発見することができました。（藤原かえで）